

BTMU CHINA WEEKLY

EXPERT VIEW:【日系企業のための中国法令・政策の動き】

今回は 2012 年 10 月下旬から 11 月上旬にかけて公布された法令をとりあげました。

【行政法規】

- 「国務院の税関特別監督管理区域の科学的発展促進に関する指導意見」（国発[2012] 58 号、2012 年 10 月 27 日発布・実施）

保税區、輸出加工區、保税物流園區などの税関特別監督管理区域の今後の発展方向について指針を示したもの。現状は、種類が多すぎる、機能が単一、設立を重視して発展を軽視するという問題があるとして、徐々に統合を推進するとしている。既存の区域は元の計画面積を拡大せずに機能を統合して総合保税區とし、新設の区域は原則として総合保税區と命名する。数を適度に増やす一方で、建設後の検収を行っていない区域や土地利用・運営効率が低い区域については期限を切って改善を命じ、実行されない場合は取り消しまたは計画面積を削減する。また、区域内の企業については、国内外の高技術・高付加価値プロジェクトを選択して検査・修理業務を展開することを支援し、条件のある区域では研究開発・設計・ブランド構築・コアデバイス製造・物流等の業務を展開することを奨励する、としている。

【規則】

- 「国家食品薬品监督管理局弁公室の薬品登録生産現場検査管理強化の關係事項に関する通知」（食薬監弁注[2012] 129 号、2012 年 11 月 1 日発布・実施）

薬品製造工場は、国家食品薬品监督管理局の専門機関の現場検査が義務付けられているが、その手続きを厳格化するもの。①新薬・改良薬品の GMP 実施による工場改造または移転で、6 ヶ月以内の現場検査申請ができない場合を除き、その他の登録現場の検査は期限内に申請するものとする、②但し、期限通りに申請できない品種については、延期申請を認める、③新薬の技術審査・評価審査申請後に、原料サプライヤーの生産場所・技術パラメーターなどの小さな変更があっても、製品の品質に影響がない場合は、変更申請を認める、など。

- 「国家食品薬品监督管理局の特定用途化粧品の行政許可技術審査・評価結論増加の關係事項に関する通知」（国食薬監保化[2012] 308 号、2012 年 11 月 6 日発布、2013 年 1 月 1 日実施）

特定用途化粧品（育毛、染毛、除臭、しみ取りなど）の技術審査・評価について、比較的小さな修正が必要な場合、“資料完備後の認可を提案”という結論を増設するもの。比較的小さな修正とは、①製品の中文名称を修正または中文ピンイン名の完全化が必要、②製品の成分配合が合理的で、更に論述、根拠文献提出または文字表示の規範化が必要、③生産工法が合理的で、更に個別の説明の改善が必要、など 8 つのケースがあげられている。

- 「国家食品薬品监督管理局の化粧品生産企業の名称・住所変更（生産現場は変更せず）簡素化の關係事項に関する通知」（国食薬監保化[2012] 307 号、2012 年 11 月 7 日発布、2013 年 1 月 1 日実施）

化粧品生産企業が名称を変更、または生産現場は変更せずに住所を変更する場合及び輸入化粧品の行政許可申請単位が名称・住所を変更する場合、国家食品薬品监督管理局に変更申請を行えば、届出登記証書の情報を一括して変更するとしたもの。行政手続きの簡素化が趣旨。

（本シリーズは、原則として隔週で掲載しています。）

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
国際事業本部 海外アドバイザー事業部
池上隆介

CHINA WEEKLY

WEEKLY DIGEST

【経済】

◆10月の主要経済指標

国家統計局は9日、10月の主要経済指標を発表した。10月の消費者物価上昇率（CPI）は前年同月比+1.7%となり、前月の同+1.9%から0.2ポイント下落し、2年9ヶ月ぶりの低水準となった。品目別では、食料品の上昇率が前月の同+2.5%から同+1.8%に低下、非食料品は前月横ばいの同+1.7%だった。食料品の内訳を見ると、野菜の上昇率が同+1.1%と、上昇幅が前月の同+11.1%に比べ大幅に縮小した。その他、水産物は同+4.7%、果物、油脂はそれぞれ同+3.9%となった。一方、豚肉は同▲15.8%と前月（同▲17.6%）に続き大幅に下落した。10月の工業生産者出荷指数（PPI）は前年同月比▲2.8%となり、8ヶ月連続のマイナスとなったものの、下落幅は前月の同▲3.6%から縮小している。1-10月の固定資産投資は前年同期比+20.7%と、1-9月から0.2ポイント微増。10月の工業生産（付加価値ベース）は前年同月比+9.6%となり前月の同+9.2%から小幅上昇した。10月の社会消費財小売総額は前月より0.3ポイント上昇して同+14.5%となった。税関総署が10日に発表した貿易統計では、10月の輸出入総額は前年同月比+7.3%、うち輸出は同+11.6%と、前月（同+9.9%）に続き回復傾向を示し、輸入は同+2.4%と前月比横ばいだった。1-10月累計の輸出入総額は前年同期比+6.3%となり、うち輸出が同+7.8%、輸入が同+4.6%で、貿易相手国・地域別では、日本との輸出入が同▲2.1%となり、1-9月の同▲1.8%から下落幅が拡大した。また、EUとの輸出入も同▲3.0%と、1-9月（同▲2.7%）に続き落ち込んだ。一方、ロシアは同+13.4%、ASEAN同+9.4%、米国同+9.1%と、いずれも1-9月に続き増加した。なお、今後の貿易の動向について、商務部は、政府が掲げる通年の増加率目標である前年比+10.0%を達成するのは非常に厳しいとの認識を示した。

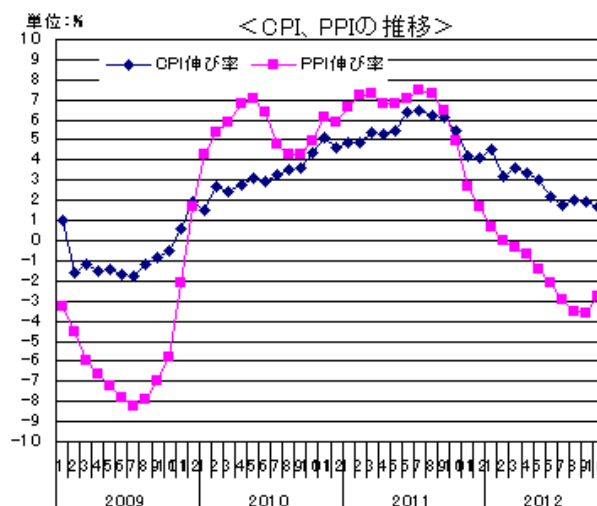
<10月の主要経済指標>

項目	金額	前年比(%)
固定資産投資（除く農村企業投資）*	（億元） 292,542	20.7
第一次産業	（億元） 7,473	32.3
第二次産業	（億元） 128,750	21.9
第三次産業	（億元） 156,319	20.1
民間固定資産投資*	（億元） 180,997	25.2
工業生産（付加価値ベース）**	-	9.6
社会消費財小売総額	（億元） 18,934	14.5
消費者物価上昇率（CPI）	-	1.7
工業生産者出荷価格（PPI）	-	▲2.8
工業生産者購買価格	-	▲3.3
輸出	（億ドル） 1,755.7	11.6
輸入	（億ドル） 1,435.8	2.4
貿易収支	（億ドル） 319.9	-

*:1~10月の累計ベース。

**：独立会計の国有企業と年間販売額2,000万元以上の非国有企業を対象。

（出所：国家統計局等の公表データ）



【産業】

◆10月の自動車販売台数 前年同月比 5.3%増加

中国自動車工業協会の12日の発表によると、10月の自動車販売台数は前年同月比+5.3%の160.60万台となり、前月の同▲1.8%から回復した。一方、生産台数は同+1.1%の158.70万台と小幅な伸びに留まった。車種別では、乗用車の販売が前年同月比+6.4%（129.89万台）となり、同▲0.3%だった前月から増加に転じた一方、生産は同+1.5%（128.02万台）と、前月の同+6.1%から伸びが減速した。乗用車販売のブランド別では、日系が前月の同▲40.8%からさらに低下し、同▲59.4%の激減となった。一方、その他の外資系は、独系が同+30%を超える高い伸びとなったほか、米系、韓国系、仏系も同+20%超えの堅調な伸びを示した。なお、商用車は、販売が同+1.0%（30.71万台）、生産が同▲0.5%（30.68万台）と、ともに低水準に留まったものの、前月（販売は同▲7.6%、生産は同▲5.8%）に比べ伸びが加速した。

【金融・為替】

◆10月の人民元新規貸出 前年同月比 816 億元減少の 5,052 億元

人民銀行の12日の発表によると、10月の人民元新規貸出は前年同月比816億元減少して5,052億元となり、年初来の最低水準となった。10月末時点のマネーサプライ（M2）は前年同月比+14.1%の93兆6,400億元となり、伸び率は前月末より0.7ポイント低下した。同時に発表された10月のクロスボーダー人民元決済額は、経常項目が2,333億元、うち、貨物貿易が1,665億元、サービス貿易及びその他が668億元。資本項目が187億元、うち、対外直接投資が11億元、対内直接投資が176億元となった。

人民元の動き

日付	USD				JPY(100JPY)		HKD		EUR		金利 (1wk)	上海A株 指数	
	Open	Range	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比	Close	前日比			前日比
2012.11.05	6.2460	6.2451~6.2465	6.2454	0.0039	7.7790	0.0082	0.80563	0.0003	7.9814	-0.0700	3.0000	2213.84	-3.17
2012.11.06	6.2447	6.2447~6.2475	6.2456	0.0002	7.7915	0.0125	0.80577	0.0001	7.9802	-0.0012	3.1900	2205.43	-8.41
2012.11.07	6.2436	6.2436~6.2446	6.2437	-0.0019	7.7822	-0.0093	0.80498	-0.0008	8.0223	0.0421	3.1200	2205.17	-0.26
2012.11.08	6.2429	6.2429~6.2434	6.2429	-0.0008	7.7989	0.0167	0.80459	-0.0004	7.9600	-0.0623	3.2800	2169.23	-35.94
2012.11.09	6.2482	6.2382~6.2482	6.2450	0.0021	7.8607	0.0618	0.80516	0.0006	7.9604	0.0004	3.2200	2166.64	-2.59

(資料) 中国外貨取引センター、中国人民銀行、上海証券取引所資料より三菱東京 UFJ 銀行国際業務部作成

RMB レビュー&アウトルック

今週の中国人民元は6.24を中心とした動意の薄い展開が続いた。もっとも、中国人民銀行が設定する対ドル基準値からみて許容変動幅の上限(+1%)まで上昇する日が続いており、先週に引き続き堅調な地合いとなっている。人民元の流動性状況は安定しており、7日物レポレートは3%台前半を中心に推移している。今週発表された10月の経済指標は概ね市場予想を上回った。小売売上高が前年同月比+14.4%と3ヵ月連続で伸びが加速したほか、鉱工業生産も同+9.2%と市場予想、前月実績共に上回っている。一方で、消費者物価指数は低下した。伸び率は前年同月比+1.7%と2年9ヵ月ぶりの低水準に落ち込んでいる。

8日には5年に一度の党大会が開幕した。会期は14日までであり、15日の党中央委員会第1回全体会議にて総書記が選出され、新指導部が正式発足する予定だ。党大会で選出された総書記は3月に開催される全国人民代表大会(全人代)において国家主席に選出されるが、胡錦濤氏は今回の党大会で総書記の座を退くとみられており、10年ぶりの政権交代が実現しそうだ。次期政権が発足するまでは様子見姿勢が強まるとみられ、来週の人民元も動意に乏しい展開が続くだろう。もっともユーロ相場の軟化を受けて、対バスケットでの安定化を図るために人民元が対ドルでは下落する可能性も高く、新政権発足後の人民元相場も上値の重い展開が続こう。

(11月9日作成) (市場企画部市場ソリューション室 グローバルマーケットリサーチ)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。